

水産業界をリードする情報誌

日刊  
速報

# 水産タイムス

THE SUISAN TIMES



発行所 株式会社 水産タイムズ社

編集発行人 越川宏昭

〒108-0014 東京都港区芝5-9-6

TEL 03(3456)1411 FAX 03(3456)1416

ホームページ http://www.suisantimes.co.jp/

e-mail suisan@suisantimes.co.jp

日刊(但し土・日曜・祝祭日休刊)

購読料 1ヵ月 4,800円 6ヵ月 28,800円(税別)

2013年(平成25年)

8月21日(水) 11665号

## 世界のスリミ生産、10%減の78万 t

オレゴン州立大学すり身スクール(ジェイ・パク博士)が主催する第2回すり身フォーラム日本が東京・有明のホテルサンルート有明で開催され、2013年の世界のスリミ生産量が「前年対比10%減の78万t前後になる」などの見通しが報告された。

世界のスリミ生産量(見通し)

	2012年	2013年
スケソウダラ	227,100	225,000
その他タラなど	34,100	34,000
アジア産スリミ	576,600	513,000
サバ・イワシ等	15,000	13,000
その他	5,500	6,000
合計	858,300	791,000

その他タラ=PW、BW、ホキ等 単位=トン

同フォーラムには世界からスリミ関係者約100人が参加。主要スリミ生産国の供給動向や日本をはじめとするアジアや欧米などスリミ製品の主要市場の最新トレンドなどについて報告した。

スケソウスリミの今年の生産見通しは22万t(そのうち米国産17万t)と前年並みとなる一方で、タイやインド、ベトナムなどのアジ

ア産スリミの生産量は昨年の58万tから約8万t(前年対比12~15%)減少し、50万t前後になる見込み。世界全体ではアジアスリミの減産が影響し、前年対比10%減の78万t前後(2012年は86万t)のスリミ生産になる見通しを示した。

需給動向について総括したフーチャーシーフーズのパスカル・ゲニュグス氏は「今年Aシーズンに米国産スケソウスリミの日本向け価格が前年同期比4割、欧州向けが2割下落したことで、アジアや欧州などからの需要が増加。一方で、アジア産スリミの需要が減り、価格が下落。中国やベトナムなどでは価格が合わないために、漁に出なかったり、スリミの生産をしない生産者が増えている」と減産の理由について説明した。

ゲニュグス氏は低迷するスリミ価格について「アジア諸国を中心にスリミに対する世界的な需要は増えており、供給を上回る傾向にある。来年には価格が戻るのではないか」と見通しを語った。

- マルハニチロ、ゼライスレシピ本発刊…………… 2
- 水産物の店頭学習会店舗を公募…………… 2
- キューピー、ごはん用調味料を発売…………… 2
- 食品産業の取引慣行改善が足踏み!?…………… 3
- くら寿司、「熟成まぐろ」をメニューに…………… 4
- 水産事業、調達コストが利益圧迫…………… 4
- 農水省、魚の国のしあわせ特別展示…………… 4

### 業界人物スポット

(10825)

(株)ジョッキ

代表取締役社長

しむら

かずひこ  
志村 和彦氏

(表紙の続き) 日本水産ではE P A (エイコサペンタエン酸) 配合の健康食品を手に取り、「こういう形だと子ども食べてくれるだろう」と期待した。

シーフードショーは23日まで。3日間で3万2000人の来場者を見込んでいる。セミナーやシンポジウムも開催する。22日は「水産練り製品の新しい展開」(水産大学校)、「早期ブリ養殖技術の研究」(水産総合研究センター)、23日は「学校給食への水産物導入とその成功例」(大日本水産会)などを予定している。

## ビチュナイ社、すり身フォーラムに参加

20~21日開催された第2回すり身フォーラムにはリトアニアのカニカマメーカー、ビチュナイ・グループも参加。ビチュナイ・ヨーロッパのDirk・Belman CEOらが出席し、欧州やロシア・東欧市場の現状を報告した。

リトアニアに拠点を置くビチュナイ社は世界最大のカニカマメーカーで、昨年はカニカマなどスリミ製品を約7万t生産したほか、その他の魚製品2万t、パン粉付き製品1.5万tなど合計11万2000tの水産加工製品を生産した。リトアニア中心にエストニア、ロシア、スペインに計9カ所の生産拠点を構えている。昨年の売上高は3万3500万ユーロ(約440億円)、従業員数は6500人を誇る。



ビチュナイ・ヨーロッパのBelman CEO

## フランス、低価格品中心に消費減少

2012年のEUの国別スリミ輸入量は最大市場のフランスが1万9853t(前年対比17%減、シェア45%)、スペインが1万2733t(同31%増、シェア29%)、リトアニアが9182t(前年並み、シェア21%)など。スペインの輸入が昨年約3000t増えている理由として「昨年ビチュナイ社がスペインの工場を稼働させたため、約2000t増加。マーケットの伸びによる増加は残りの1000t」とBelman氏は説明した。

スリミ以外に、カニカマなどのスリミ製品が中国(1万2728t)、タイ(9666t)、インド(7447t)などから昨年EUに輸入された。

2012年のカニカマ製品の西ヨーロッパ諸国の市場規模はフランス6万1000t、スペイン4万t、英国1万t、ベネルクス(オランダ・ベルギー・ルクセンブルク)・スカンジナビア6000t、イタリア7000t、ドイツ5000t、合計12万9000t。フランス(シェア47%)とスペイン(同31%)で8割を占める。

Belman氏は「スペイン市場は堅調だが、フランスは今年3%程度減少している。ディスカウンター在台頭で、スーパーでのPB製品など低価格品の売れゆきが落ち込んでいる」と語った。フランス市場ではブランド製品(NB)のシェアが34%、プライベートラベル(PB)製品が44%、価格訴求品が21%を占めるという。Belman氏は「フランスではリン酸塩などの添加物を使わない高品質の製品が売れており、今後もそのような製品の開発が必要」と指摘した。

また、スペインのメーカーを中心に革新的なスリミ製品の開発が進んでいる点に触れ、パスタのような製品やサンドウィッチ用のスライス製品、ウナギの稚魚の形をした製品などを紹介した。

欧州市場ではMSC(海洋管理協議会)のロゴマークの存在が大きく、特に英国ではMSC製品に対する需要が強まっているという。現在、EUに輸入されているスリミ(2012年は4万4000t)のうち、MSC認証を受けているアラスカ産スケソウスリミは50%以上(2012年は2万4000t)のシェアを占める。「今後はそのシェアが60~65%に増えるだろう」とBelman氏は指摘した。

## ロシア、カニカマ消費が大幅減少

ロシアや東欧市場の状況についてはビチュナイ社のTomas Skierus氏が報告した。

2012年のロシア、東欧諸国、ポーランドのスリミ製品(8割以上がカニカマ)消費量は8万1754tと前年対比23%減少した。全体の67%を占めるロシアの消費量(2012年5万4667t)が前年対比約2万t減少した。

Skierus氏はロシアでの減少について「スリミ製品の価格が高く、鶏・豚・牛肉などその他のたん白製品に消費をとられたため。また、冷凍スリミ製品の品質が低く、消費者離れを起こしている」と説明した。ロシアに次ぐ消費国はウクライナ(2012年1万4153t)、ベラルーシ(同5800t)。